

1. 日 時 2018年 7月 4日 (水) 第1時限
2. 場 所 第1社会科教室
3. 学年・組 高校 日本史イ 選択クラス 37人
4. 単元名 立憲国家の成立
5. 単元計画と配当時間
 - ・自由民権運動と政府の対応 … 1時間 本時
 - ・明治十四年の政変と政党の結成 … 1
 - ・松方財政 … 1
 - ・激化の諸事件と民権運動の復活 … 1
 - ・大日本帝国憲法の制定 … 1
 - ・初期議会 … 1
 - ・条約改正 … 1

6. 本時のねらい

- 自由民権運動期は、民権派の士族層、豪農層、庶民層で議会開設要求への対応がことなり、政治構造は政府・民権派・庶民層の三極構造であったことを説明できる。
- ・士族層は権力に「わりこむ運動」として自由民権運動を展開し、豪農層は、租税審議権をもとに議会開設、参政権を要求し伴に民権派として政府と対立した。
 - ・庶民層（下層農民層）は、安く食事ができればだれが実権を握っても構わないと考え、政府、民権派、庶民の三極構造を形成することとなった。
 - ・民権派と政府は対立しつつ、「近代国家の建設」「民衆の国民化」という大枠を共有し、民衆と民権派は目指す方向を異にしながらも「反政府」の一点で共振し、政府に大きな脅威を与えた。

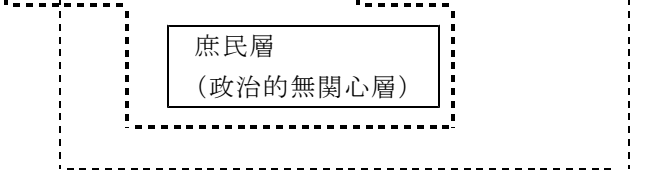
7. 本時の授業展開

過程	発問・指示	教授・学習活動	資料	予想される答え・生徒に獲得させたい知識
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・自由民権運動を学習する。 ・自由民権運動とは何か。何を求める運動か。 ・図①②は、自由民権運動期の同じような場面を描いたものである。何を描いたものだろうか。 ・どちらの絵もア～エの要素が描かれている。それぞれ何か。 ・なぜエのように、聴衆はものを投げるのだろうか。何に対して、誰に対して投げているのだろうか。予想を記入しよう。 <p>グループで話し合おう。</p>	<p>T：発問する P：答える</p> <p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：資料提示して発問する P：資料を見て予想する</p> <p>T：指示する S：話し合う</p>	<p>絵図①②</p> <p>③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国会開設。 ・演説会 ・ア：聴衆 イ：弁士 ウ：警官 エ 聴衆が投げたもの ・「言論が高尚なるも、時事に痛切にならざる時は、聴衆は実にあくびにたえざる有様」、「着実平穩の言論」では「一堂寂寞として声なく」「座睡する者」もいたという。 ・高尚な演説ではしんと静まり返ったり、寝たりするのは、熱心と言えない。
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・このような演説会が一時期盛況であり、人気弁士植木枝盛の場合、同じ村で昼夜2回演説会を開催することもあったというが、資料③にはどのように表現されているか。 ・演説会には入場料も必要であったが、庶民・農民らが熱心に演説会に参加したの理由・目的は何か。議会設置が目的なのか。 <p>MQ熱心な様子の演説会もある一方で、静まり返る場合もある。江戸時代まで議会などなかったのに、人々が議会開設を要求した理由や条件は何か。また、どのような者たちが運動を展開したのか。</p>	<p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：考える</p>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・どの様なものたちが議会開設を要求したのだろうか。 ・そもそも自由民権運動の契機、始まりは何か。 	<p>T：発問する P：考える</p> <p>T：資料提示して発問する</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・1874年の民撰議院設立建白書。

<ul style="list-style-type: none"> この建白書が自由民権運動の契機と言われる理由は何か。 	<p>P：資料を見て答える T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p>	④	<ul style="list-style-type: none"> 政府左院に提出されたが、「左院御用」のお墨付きを得ていた「日新真事誌」（ジョン・ブラック経営）に掲載され、広く知られるところとなった。 掲載されると、内容の是非を巡って賛否の新聞への投書、雑誌に意見が掲載され、「民選議院論争」がおこった。
<ul style="list-style-type: none"> ある研究者はこの民撰議院設立の建白書の提出について、「わりこむ運動」と評している。だれが、何に「わりこ」もうとしていると考えられるか。 	<p>T：発問する P：答える</p>		<ul style="list-style-type: none"> 征韓論争で敗れ、下野した征韓派参議の士族の板垣退助・江藤新平・古沢滋・由利公正ら8名が、この建白書を提出した。当時の政府に「わりこ」もうとした。すなわち、権力の座から追われた者たちが再び権力に「わりこむ」ためのものであった。
<ul style="list-style-type: none"> 建白書では「有司専制」批判を行っているが、「有司」とはだれか。 	<p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p>	④	<ul style="list-style-type: none"> 大久保ら。
<ul style="list-style-type: none"> 提出した結末はどうなったのか。教科書には何と書いてあるか。 	<p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p>	⑤	<ul style="list-style-type: none"> 政府は建白書を無視した。板垣らは故郷へ帰って立志社を設立した。
<ul style="list-style-type: none"> 板垣らが帰郷した理由は何か。 	<p>T：発問する T：説明する</p>		<ul style="list-style-type: none"> 民撰議院論争で批判され、支持を得られなかったのだ。
<ul style="list-style-type: none"> 板垣らがこの建白書で批判された理由は何か。 	<p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p>	⑥	<ul style="list-style-type: none"> 「有司専制」というが、この前まで板垣らが「有司」だったのではないか、大久保を批判する資格がないのではないかと争われた。これが民撰議院論争の論点の一つである。
<ul style="list-style-type: none"> 「民撰議院論争」では他にどのような点が争われたか。 	<p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p>	⑦	<ul style="list-style-type: none"> 議会を開設すべきかいなかではなく、即時開設すべきか否かで争われた。。
<ul style="list-style-type: none"> 議会はあつてしかるべき、という流れができた理由・条件は何か。政府がその最初に神に誓ったものは何か。 	<p>T：発問する P：答える</p>		<ul style="list-style-type: none"> 政府も五箇条の誓文の第一条で「広く会議を興し、万機公論に決すべし」とうたっていた。幕末外交問題から始まった幕府独裁批判があり、なんらかの会議体が必要であることは合意されていた。
<ul style="list-style-type: none"> 板垣が故郷で設立した立志社とはどのようなものか。 	<p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p>	⑧	<ul style="list-style-type: none"> 民権結社の一つである。各地でこのような結社が形成され、藩や村のように先天的にあるものではなく、各個人が自発的に立ち上げ、参加するような組織である。
<ul style="list-style-type: none"> 全国各地で結成された結社は、どの様なものか。 	<p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p>	⑧	<ul style="list-style-type: none"> 結社の目的や結びつきのきっかけは多様で、勉強会・読書会のようなものや農業改良のようなもの、政治運動をおこなうものなどさまざまあり、全国で2100余り結成されていたという。
<ul style="list-style-type: none"> 立志社では、どのような活動を行ったのか。 士族のための活動とは何か。 	<p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p>	⑨	<ul style="list-style-type: none"> 政治的主張も行ったが士族のための活動をおこなった。 貧窮士族の救済。士族は秩禄処分で金禄公債を受け取ったが、困窮した士族は資金を受け取る前に売却していた。これを立志社は政府の代わりに立て替えて士族に金禄を支払った。8万円余を融通した。
<ul style="list-style-type: none"> このような士族救済が実施可能な条件は何か。 	<p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p>	⑨	<ul style="list-style-type: none"> 製茶業を営んだり、政府から山林を払い下げを受けたりして商業活動を行っていた。また、高知県の出納係を担っていた。
<ul style="list-style-type: none"> このような状況において、板垣ら立志社のメンバー・士族は、県政に「わりこむ」ことは成功したといえるのか否か。 	<p>T：発問する P：答える</p>		<ul style="list-style-type: none"> 成功したといえる。
<ul style="list-style-type: none"> 立志社が中心となって全国で結成された結社の一部が、大阪で結集したのものは何か。 	<p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p>	⑩	<ul style="list-style-type: none"> 愛国社。1875年2月に64名で創立大会開催した。四国51名、中国九州5北陸2。西日本中心。

<p>15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> しかしこの組織はすぐに自然消滅状態になる。理由は何か。 板垣の参議復帰の契機は何か。 <ul style="list-style-type: none"> 大阪会議を契機に民権運動として前進とされたことは何か。 <ul style="list-style-type: none"> 「わりこ」みに成功した板垣らはどうなったか。1881年に政党を結成したが、それは何か。 自由党は政府与党であったか。板垣らの「わりこ」みは長続きしたのか。 <p>SQ1士族が自由民権運動をすすめた理由・目的は何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> 板垣は、多くの庶民が参政権を持つことに対してどのように考えただろうか。予想しよう。 	<p>T：発問する T：説明する T：発問する T：説明する</p> <p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える T：発問する T：説明する</p> <p>T：発問する T：説明する</p> <p>T：発問する P：答える T：発問する P：予想する</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 板垣の参議復帰。「わりこ」むことに成功したから。 大阪会議。明治六年の政変で下野した板垣と台湾出兵を機に下野していた聴衆の実力者木戸孝允と政府の実力者大久保との会談である。2名の政府に復帰させ政権強化を企図したものである。 漸次立憲政体樹立の詔。元老院（立法諮問機関）・大審院（現在の最高裁）設置、地方官会議（全国の地方官を集めて地方の状況を政策に反映させるための会議）設置が発表された。 政党は自由党。板垣は党首となっている。 <ul style="list-style-type: none"> 与党ではない。政府と対立する。板垣らの権力復帰は長続きせず。参議復帰後7か月後の1875年10月に参議を辞職する。 権力に「わりこむ」こと。江戸時代のように政治的実権を握ること。 庶民の参政権には賛成であった。反対であった。
<p>展開2</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最初の衆議院議員総選挙の結果から、どのようなものが議員に当選したか見てみよう。 <p>SQ2なぜ地主・農民が半分を占めるのか。地主・農民が立候補する意図・目的議員に立候補するのか。自由民権運動を行う目的は何か。予想しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合おう。 立候補には資格があった。それは何か。 <ul style="list-style-type: none"> そもそも自由民権運動の契機は何だったか。 「建白書」では、なぜ農民が議員になるのか、議会開設を要求するのか、どの様にあるかわかっているのか確認しよう。 <ul style="list-style-type: none"> 農民が最も関心を持つ、政治の可否を判断したい事柄は何か。 一番の納税者はどのようなものたちか。歳入を大きく占めるのは何か。 <ul style="list-style-type: none"> 江戸時代も農民は年貢を納めていたがなぜ、明治時代になってこのようなことを言い出すのだろうか。 租税審議権は、アメリカの独立革命の際にしようされた言葉がある。租税審議権につながる、何という言葉か。 人々はどのようにして、このような思想を知ったのだろうか。 なぜ農民らが、自由民権運動に参加できたのか。参加可能な条件は何か。 <ul style="list-style-type: none"> どのような活動をしたのか。活動に必要なものは何か。 1870年代の経済の状況はどうであったか 	<p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p> <p>T：発問・指示する S：予想する S：話し合う</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p> <p>T：発問する T：説明する</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：予想する T：発問する</p> <p>T：発問する T：説明する</p> <p>T：資料提示して発問する</p>	<p>⑪</p> <p>④</p> <p>⑫</p> <p>⑬</p>	<ul style="list-style-type: none"> 300議席のうち、半数近い144人が地主・農業である。あとは役人・弁護士、銀行員、会社員、新聞雑誌記者など。 納税しているから。 直接国税15円以上納入する、30歳以上の男子。 1874年の民撰議院設立の建白書である。 「……そもそも政府に対して租税を払う義務が人民にあるということは、人民はその政府の治政に対して、それを知り、可否を判断する権利を持っているということである。……」 租税を払う者には政府の政治の可否を判断する権利をもつ。 予算案である。 農民。地租。農民が治める地租が、1890年迄で、歳入の6～8割を閉めている。 欧米の租税審議権という思想の影響を受けている。 「代表なくして課税なし」。イギリス憲政の本質を表現した言葉である。議会思想が導入されている。 文明開化期に西洋の思想が輸入される、翻訳されたのではないだろうか。 活動の内容は、学習会や演説会であるが、活動資金が必要である。 インフレであり、生産米を売って、固定地租を支払う農民にとっては有利であった。豊かな農民は活動

15分	<p>・そのほかの条件は何かあるか。</p> <p>・士族が少なくなった理由は何か。</p> <p>SQ2地主・農民が立候補する意図・目的は何か。</p> <p>・農民の運動参加は政府にとって、歓迎すべきことか否か。</p> <p>・これまでの関係を図示するとどうなるだろうか。</p>	<p>P：資料を見て答える T：発問する T：説明する</p> <p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p>	<p>資金が潤沢にあった。</p> <p>・1878年に愛国社再興大会が開催され、西日本の結社にとどまり、士族の参加も少なく、1879年の再興第3回愛国者大会から（東日本の福島県農民代表河野広中らも参加し始めが中心となった。</p> <p>⑭ ⑮ ⑯</p> <p>・一部の士族は「わりこ」みに成功し、結社の幹部は県庁や政府の官吏となって（役人）、活動の基軸となる人物を失ったり、活動資金が欠乏したりした。</p> <p>・一番納税している自分たちこそ租税の使い道を話し合う権利がある、そのために国会開設を要求したから。農民らが権力に「わりこむ運動」に参加した。</p> <p>・歓迎すべきことではない。いつかは国会は開催し無ければならないとしても、農民らに主導権を握られることは自分たちの存在意義が失われる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">民権派（士族→農民） 板垣ら</div> <div style="text-align: center;">⇔ 対立</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">政府 大久保ら</div> </div>
展開3	<p>SQ3最初の絵図①②、資料③で示したように盛り上がる演説会とそうでない演説会がある理由は何か。</p> <p>・なぜ演説会に警官がいるのか。今のさまざまな会合に警官立会いのものなどあるのか。</p> <p>・集会条例制定の契機は何か。</p> <p>・次の資料を読もう。国会期成同盟が結成された直後の1880年12月の「東京日日新聞」の記事であるが、何を意味しているのか。</p> <p>・このような庶民層の意識をある研究者はどのように表現したのか。</p> <p>・1870年代後半からこの時期の経済の状況はどうであったか</p> <p>・だれが政治的実権を握ろうが、ごはんさえ食べられれば関係ない、とは自由民権運動の考え方とあうか、あわないか。</p> <p>・盛り上がる演説会とこのような状況をどのように考えればいいのか。予想しよう。話し合おう。</p> <p>・このような政治に無関心な庶民層は、例えば徴兵に快く応じるだろうか。</p> <p>・このような階層は、現在で言うところのどのように表現できるだろうか。</p> <p>・以上三者の関係を図示するとどうなるだろうか。</p>	<p>T：発問する P：考える</p> <p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p> <p>T：発問する T：説明する</p> <p>T：資料提示して発問する P：資料を見て答える</p> <p>T：発問する T：説明する</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問・指示する S：予想する S：話し合う</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p>	<p>⑮ ⑯ ⑰</p> <p>・現在は（警備をのぞいて）ない。集会は警官が立ち会う、事前に届け出、3日前までに集会のテーマなど提出すること、結社は府県庁への届け出制などが定められた集会条例が1880年に制定された。愛国社は解散させられた。</p> <p>・国会開設を請願し、開設されるまで解散しないという国会期成同盟野第一回大会の最中に出され、早速解命令が出された。</p> <p>⑮ ⑯</p> <p>・「鯰の子が地震になろうが、赤ひげ（外国人）が威張ろうが、琉球人が将軍になろうが、米さえ安くなって元のように一日三度ずつ米飯が食われれば、<small>オランダ</small>己達はほかに望みも願いもなし」（外国人を含んで）誰が実権を握っても、安くご飯を食べることができればそれだけでいい。</p> <p>⑰</p> <p>・「客分意識」と表現した。</p> <p>・インフレで、米を買うものたち（都市の庶民）にとっては厳しい現実であった。</p> <p>・あわない。</p> <p>・高尚な演説は理解ができず、あくびに座睡。演説停止命令をだした警官と弁士のバトルがおもしろい。それが楽しみであった。</p> <p>・応じないだろう。「御国のために働く」という考えは及ばないであろう。政府の目指す国民国家形成には大きな課題となる。</p> <p>・無党派層。政治的無関心層。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">民権派（士族→農民） 板垣ら</div> <div style="text-align: center;">⇔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">政府 大久保ら</div> </div> <p style="text-align: center;">↓</p>

12分			
終 結 3分	<p>MQ熱心な様子の演説会もある一方で、静まり返る場合もある。江戸時代まで議会などなかったのに、人々が議会開設を要求した理由や条件は何か。また、どのような者たちが運動を展開したのか。</p> <p>・自由民権期の政治構造はどのようになっていたのか。</p>	<p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p>	<p>・士族層は権力に「わりこむ」ため、農民層は租全審議のため、政府に議会開設を要求して激しく対立した。庶民層は政治的に無関心であり、だれが実権を握ろうと安く食事さえできればいいと考えた。政府は近代国家＝国民国家形成のため、民権派は「民衆の国民化」のためという大枠を共有した。</p> <p>・政府、民権派、庶民層の三極構造であった。</p>

8. 使用教科書・資料集

教科書 「日本史B改訂版」実教出版、平成30年 「日本史A 現代からの歴史」、平成30年

資料集 「図説 日本史通覧」帝国書院：図

9. 参考文献

松沢裕作『自由民権運動<デモクラシー>の夢と挫折』岩波新書、2016 … I

牧原憲夫『シリーズ日本近現代史② 民権と憲法』岩波新書、2006… II

牧原憲夫『ニューヒストリー 近代日本1 客分と国民のあいだ 近代民衆の政治意識』吉川弘文館、1998

10. 使用史料

- ①演説会絵図：教科書AP. 57
- ②演説会絵図：II、p. 25
- ③演説会の様子：II、pp. 24-25
- ④「民撰議院設立建白書」：資料集
- ⑤板垣のその後：教科書A p. 56
- ⑥建白書への批判：I、p. 42
- ⑦民撰議院論争：I、p. 43
- ⑧立志社：I、p. 50
- ⑨立志社の活動：I、p. 54
- ⑩愛国社：I、p. 62
- ⑪第1回総選挙で当選した衆議院議員の職業：日文p. 186
- ⑫歳入の項目：図p. 212²
- ⑬紙幣発行量グラフ：図p. 222¹-A
- ⑭士族の県政への参加：I、p. 76
- ⑮集会条例：史料p. 27
- ⑯庶民の意見：II、p. 19
- ⑰「客分」意識：同上

11. 評価項目 知識・理解

A	3つの階層別に、自由民権運動に対する意識・動きが説明できる。
B	2つの階層について、自由民権運動に対する意識・動きが説明できる。
C	1つの階層について、または階層の区別なく、自由民権運動の動きを説明できる。
A	三極構造が図示できる。
B	三者を示すことはできる。
C	二極構造を図示できる。

実践上の留意点

1. 授業者より

本授業工夫したことは、次の2点である。1つめは高校の地歴科日本史Aにおいてアクティブ・ラーニングを取り入れること、2つめは小・中では扱っていない絵画資料も合わせて提示することによって、生徒の興味関心をひきつけ、政府対民権派の二極構造でとらえられがちな当時の政治構造を、三極構造で把握させるようにして、深い学びを生徒に保障しようとしたことである。

アクティブ・ラーニングには様々な形態があるが、4人グループで資料を分担して読み解き、読み説いた内容をクラス全体でシェアする方式を採用した。何を話し合わせるのかが重要であるが、読み説いた内容・知識を活用して目標を達成できる事を目指した。

2. 研究協議より

質問：内容量として、通常で可能なものか。

回答：導入でテンポ良くいくはずが生徒から意見がでず、時間がかかった。だが、2時間はかけられない。

意見：日本に初めて入ってきた制度だ。自分たちが意思を決定するのか、現在にも通じる。

質問：現代の社会問題とつなげて、主権者教育とからめているのか、明治の分析なのか。

回答：社会科歴史として授業をおこなっている。明治時代「を」を手段・題材として、現在の問題（政治的無関心層）を考えさせようとする意図があった。

意見：明治デモクラシーという言い方をする人もいるが、この内容を豊富化できるのか。客分を取り上げることは有効と思う。

質問：植木枝盛の演説は、うまかったのか。高尚だったのか。

回答：一般的演説会だけであれば高尚だが、演説会はもりあがらなかった。資料のように乱闘になると庶民は熱狂し、盛り上がった。

意見：社会科の目で見ると、客分層を、東京日日新聞の資料で取り上げているが、この資料がすべてか。学校設定科目「科学探究」で、生徒に探究させてもよいのではないか。

質問：構造図で社会を対象化しているが、生徒がその中で考えるので、ルーブリックが4つとかになっていくのではないか。

質問：主権者教育のメッセージに力が入りすぎたのでは。公民科から言えば、無党派層と無関心層は異なる階層である。生活第一は民主主義の根底だ。あるべき主権者像・意識が強く出されたのではないか。日日新聞のロジックにひきつけられすぎではないか。反転して、生活より政治意識が上にくるとい認識があるのではないか。

回答：主権者教育の出発点の授業として実践している。本授業だけで実施するものではない。